

平成26年度 「たかつの自然の賑わいづくり」 事業について

1 目的

水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内を流れている河川の小流域を単位として水・緑・生きものの調査を市民協働で行うとともに、様々な活動を通して、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。

2 活動モデル地区

(1) 活動場所

平成25年度より、川崎市立緑ヶ丘霊園内の谷戸の森（奥行き約200m、幅約100m）をモデル地区として活動を実施。



(2) モデル地区内の現況

- シラカシやアオキなど高・低木の常緑樹に覆われているため、林床が暗く、下草が少ない。
- 常緑低木のアオキが密生している箇所がある。アオキやシュロの勢力が拡大しつつある一方、土砂流出抑制が期待されるアズマネザサの勢力が後退しつつある。
- 斜面では、数箇所において土砂が流出した形跡が見られる（斜面には小さな谷筋が形成されつつあり、また斜面下に流出した土砂が堆積しテラス状になっている箇所がある）。
- 土砂の流出により新たな谷（小さな谷戸）が形成されつつあり、地図上の地形と実際の地形の状況が異なっている。
- 根元から倒れている樹木（根返り）が見られる
- トキワツクサ（要注意外来生物）が繁茂している箇所がある。
- 水が湧き出している箇所がある。



暗く下草の少ない林床

3 健全な森への再生に向けた主な取組

以下の基本方針に基づき、健全な森への再生に取り組む。

【基本方針】

- 森の保水力の向上：保水力を向上させ土砂災害に強い森にする
- 生物多様性の向上：植生の多様性の回復を図るとともに、湧き水を活用した水辺を創出することで、様々な生きものを育む森にする

【具体的な取り組み】

- 常緑低木（アオキ、シュロなど）の伐採、常緑中高木（シラカシ、シロダモなど）の間伐による下草の回復
- 要注意外来植物（トキワツユクサ）の駆除
- 土砂流出を防止するためのカントリーヘッジの設置
- 多くの昆虫の食樹であるエノキの幼木の移植
- 湧水場所の整備による水辺の創出

4 具体的な作業内容

(1) 平成25年度実施状況

- モデル地区の一角の小さな谷戸において、密生するアオキの伐採と、シラカシなどの常緑高木の間伐を実施。
- 間伐による一時的な保水力の低下に伴う土砂流出を防止するため、カントリーヘッジを設置。
- 市民参加の「水と緑の探検隊」において、森の植生観察や要注意外来植物（トキワツユクサ）の駆除作業、間伐体験を実施。



回復した
斜面の下草

(2) 平成26年度実施結果

① 間伐等の作業

モデル地区における地形や植生等の全容を把握するため、谷戸の谷底の間伐作業を実施した。

(ア) 実施日

平成27年2月6日(金)・12日(木)・13日(金)

(イ) 作業内容

- 谷戸の谷底の間伐、倒木の処理
- アオキやシュロ等の伐採
- 湧水の整備



作業前の谷戸



作業後の谷戸

② たかつ水と緑の探検隊(市民参加イベント)の実施

- 開催日時: 平成27年3月1日(日) 10時~12時
- 参加人数: 22名(公募市民8名、「エコシティたかつ」推進委員6名、事務局8名)
- 作業内容: モデル地区の森の植生観察、密生するアオキの抜き取り、湧水の整備



モデル地区の谷戸の森の観察



アオキの抜き取り作業

③ 立体模型の作製

緑ヶ丘霊園全体の地形的な特徴を把握するため、1/4,000立体模型を作製した。模型は3月1日に実施した「水と緑の探検隊」においても活用した。



緑ヶ丘霊園の立体模型



「水と緑の探検隊」での立体模型の活用

5 今後の活動の方向性

- ・ モデル地区内を地形的特長や植生を踏まえ、作業ブロックを設定し、順次対応策を実施する（平成30年度までに、モデル地区の作業を一通り完了）。
- ・ モデル地区では間伐後の植生の状況を見ながら、追加作業（常緑樹の幼木の伐採や枝打ちなど）を適宜実施する。
- ・ モデル地区における間伐作業が一通り完了した後、霊園内の別のエリアへの展開を検討。
- ・ 身近な森の再生や地形（流域）について、市民が体感し学ぶことができるフィールドとして更なる活用を検討（たかつ水と緑の探検隊の実施内容の発展・深化）

作業内容		H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
間伐作業	モデル地区	→ 谷底の整備	→ 作業ブロックを順次整備			→
	他の地区				--- 新規作業地区の検討	→
たかつ 水と緑の探 検隊	一般向け	●	●	●	●	●
	児童向け		●※ (手法の検討)	●※ (手法の検討)	●	●